

キャンプのあしあと

～実践報告のてびき～



社団法人 日本キャンプ協会

はじめに

日本キャンプ協会では、多くの人々とキャンプの学びを共有することを目的に、1996年に第1回日本キャンプ会議（現：キャンプミーティングインジャパン）を開催、1997年には『キャンプ研究』の発行を始めました。それ以来、会員のみなさまから188題の実践・研究発表、111題の実践・研究論文を寄せていただきました。その中には、大変興味深い発表、論文が数多く、キャンプの発展に寄与した役割は非常に大きいものです。

日本のキャンプを見渡すと、年間におよそ10万件ものキャンプが行われており、日本キャンプ協会会員の方々の実践も相当な数であると推察できます。日本キャンプ協会調査研究委員会では、会員によって生み出されるこうした数多くの実践を、発表や論文といった成果として取りまとめ、キャンプを実践している方々に広く伝えていくために、その手引き書として『キャンプのあしあと～実践報告のてびき～』を刊行することとなりました。

この冊子は、実践報告の役割と必要性を理解するために、

ステップ1：素材（データ）の集め方

ステップ2：キャンプミーティングインジャパンでの発表の仕方

ステップ3：『キャンプ研究』への掲載の仕方

について、詳しく解説してあります。それぞれのステップを順番に進んでいくことによって、みなさんの実践報告を、無理なく、有意義に『キャンプ研究』に掲載する原稿にまとめることができます。この冊子を手にし、実践することにより、いままでつい後回しにしていた実践報告を、楽しく、価値があるものにすることができるでしょう。

日本キャンプ協会 調査研究委員会
委員長 平野 吉直

もくじ

実践報告の役割	実践報告を書こう！	1
実践報告のデータ収集	現場には素材がいっぱい	3
発表の必要性とその方法	発表しよう	5
投稿の必要性とその方法	投稿しよう	7
実践報告お役立ち情報		10

実践報告を書こう！

キャンプでは、企画段階から始まり、関係者との協力体制を構築し、現地の下見やプログラムの開発を経て、初めてキャンパーたちの笑顔と出会うことができます。キャンプ指導者なら、事前の準備がいかにかかり、キャンプを成功させるために重要かがわかっています。ところが、キャンパーが帰ったあとは、指導者もキャンプの実践が終わったかのように思ってしまいます。

しかしながら、キャンプが終わったあとに、そのキャンプがどうだったか評価し、報告することは、次のキャンプをよりよくするため、キャンプをいつまでもずっと続けるために、事前の準備と同じくらい重要なことです。実践報告の蓄積は、これからのキャンプのため、未来の子どもたちのためになくしてはならないキャンプの実践の一部なのです。

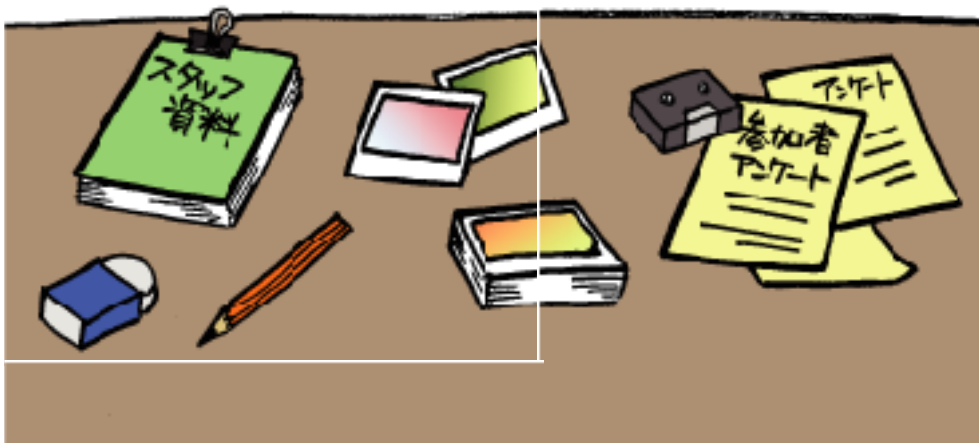
◇情報の共有

あなたのキャンプの情報は日本全国のキャンプ指導者にとって、とても役に立つ情報です。あなたのオリジナリティあふれるアイデアや成功体験、時には失敗や課題は、キャンプがよりよくなるために有効に活用されます。



◇記録の作成

報告書を作成するために、会議資料、写真、感想文などの情報を収集しますが、それらはすべてキャンプの貴重な記録となります。記憶はいつか薄れてしまいますが、その記録はいつまでも消えることはありません。



◇内部評価

キャンプを行うだけでなく、評価することは、今ではキャンプの指導者としてあたりまえのことになりました。報告書を残すことにより、キャンプの運営に関わったメンバー内部で、問題点や改善点を整理し、共通理解を得ることができます。



◇事業の可能性を広げる

キャンプの成果を示した実践報告は、その団体や事業に対する社会的な信頼につながります。優れた実践は、それを示す資料とともに社会にアピールしていくことで、さらに発展していく可能性があります。

◇社会的信頼を得る

実践報告は、ときにはあなたのキャンプの広報を手助けする役割を果たすことがあります。あなたがどんなキャンプをしているか、どれだけの知識や経験があるかということを示す資料となるからです。そして、あなたの実践が広く知られることで、キャンプ参加者の獲得につながったり、あなたの力を他団体や全国組織に活かすきっかけとなります。



日本キャンプ協会の取り組み

日本キャンプ協会は、キャンプに関する各種の調査、研究の実施や普及発展を目的として、1987年に調査研究委員会を設置しました。この委員会では、キャンプ実践および研究に関する情報交流を図るために、1996年に日本キャンプ会議（現キャンプミーティングインジャパン）を開始し、2007年までにのべ188題の発表がありました。また、これらの発表成果を公表するために、1997年にキャンプ研究を発売し、これまでに実践報告76編、研究資料20編、原著論文15編が掲載されました。また、2004年より、キャンプの最新動向や様々な調査結果を掲載した『Camp Data Book』を発刊しています。これらの発表の機会、論文作成のための情報をみなさんの実践報告の作成・発表に有効に活用してください。



現場には素材がいっぱい

キャンプ事業を企画するためには、企画書、運営マニュアルなど、たくさんの資料づくりが必要となります。またキャンプ中にも、子どもの状態のメモや写真など様々な資料が作られています。これらの情報はすべて実践報告の貴重なデータとなります。キャンプが終わったら、その貴重なデータを活用しましょう。報告を書くために一から文章を書く必要はありません。今もっている素材を整理し、実践報告にまとめ上げましょう。



◇キャンプのコンセプト

事業をはじめるとき、「こんなキャンプにしよう」、「このキャンプのウリはここだ」というような、キャンプのオリジナリティ、枠組み、社会的な役割等が話し合われると思います。それらはすべて、社会に公表すべきあなたのキャンプのオリジナリティです。ぜひみなさんのユニークなアイデアやオンリーワンのキャンプを紹介してください。

◇スタッフミーティング

スタッフミーティングの際、必ず事業の活動計画や運営マニュアルの資料を準備するはずですが、それらは、実践報告の時に、「どんなキャンプだったのか」を知るための重要な資料になります。もちろん、実際のキャンプでは少し変更したところもあるかもしれません。その時は、しっかり記録を残し、その部分だけ修正しましょう。



◇記録写真

キャンプの記録や、キャンパーへの記念品として、キャンプ中に写真をたくさん撮ると思います。それらの写真も、キャンプの様子を知るために大切な情報となります。報告には、子どもの顔写真よりも、活動している様子の方が適しています。報告にどんな写真が必要か、イメージして撮るとよいでしょう。



◇参加者感想

キャンプの最後やふりかえりの時間に、参加者から感想を聞いたり、文章を書いてもらったりしていませんか？それらも、キャンプの成果を知る上での貴重な情報となります。参加者の意見も、担当カウンセラーや記録係がメモに書き留めるだけで、いつまでも消えない記録となります。

◇スタッフ反省会

キャンプでは、参加者からの評価をもっとも大切にしなければなりません。企画から関わった内部のメンバーによる評価も、事業全体を評価するために重要です。反省会をその場だけのものに終わらせずに、その内容を文章にまとめることによって、次回の事業改善に役立つデータとなります。



アンケートの作り方 ワンポイントアドバイス

参加者に対する簡便な評価として、記入式アンケートがよく使われます。回答方法を大きく分けると、「とてもそう思う」や「どちらでもない」といった選択肢に○をつけてもらう「尺度」と、ある事柄について文章で回答してもらう「自由記述」があります。いずれも有効な方法ですが、長所短所をよく理解し、効果的なアンケートを作成してください。

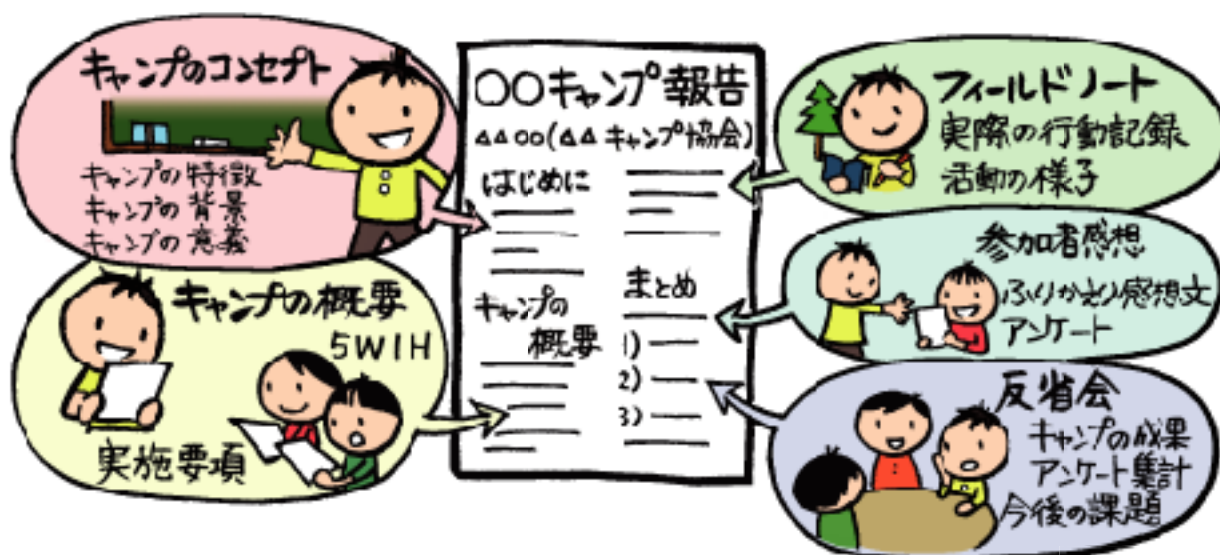
	<長 所>	<短 所>
尺 度	<ul style="list-style-type: none"> ・簡便に回答してもらえる ・結果の判断基準が明確である 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問項目しか聞くことができない ・深いところまで知ることができない ・質問項目の選択が難しい
自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの作成が簡単にできる ・深いところを知ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答に時間がかかる（ときとして回答してもらえない） ・集計に時間がかかり判断が主観的にしやすい

発表しよう

実践報告は作成して終わりではなく、公に発表して初めてその役割を発揮します。「現場には素材がいっぱい」で集めたデータ（文章、数字、写真）を、起承転結にそって整理することで、わかりやすいレジュメや発表スライドを作ることができます。今あるデータや写真などを活用し、発表の準備を始めましょう。

◇レジュメ（抄録）をつくろう！

レジュメ（抄録）は発表に先立ちその内容を簡単に把握したり、発表中に発表内容の理解を助ける役割があります。一般的に、フルペーパー（全文）に比べ、文字数が少なく制限されており、短時間で報告の骨子を理解するのに適しています。そのため、詳細な説明やデータの提示には向いていません。それ自体完全な報告ではなく、あくまで要点をまとめた資料です。



日本キャンプ協会が、現在、毎年5月に開催しているキャンプミーティングインジャパン（日本キャンプ会議）では、開催日の約1ヶ月前までに、レジュメの提出を求めています。詳しくは、会報誌「CAMPING」、協会ホームページをご参照ください。

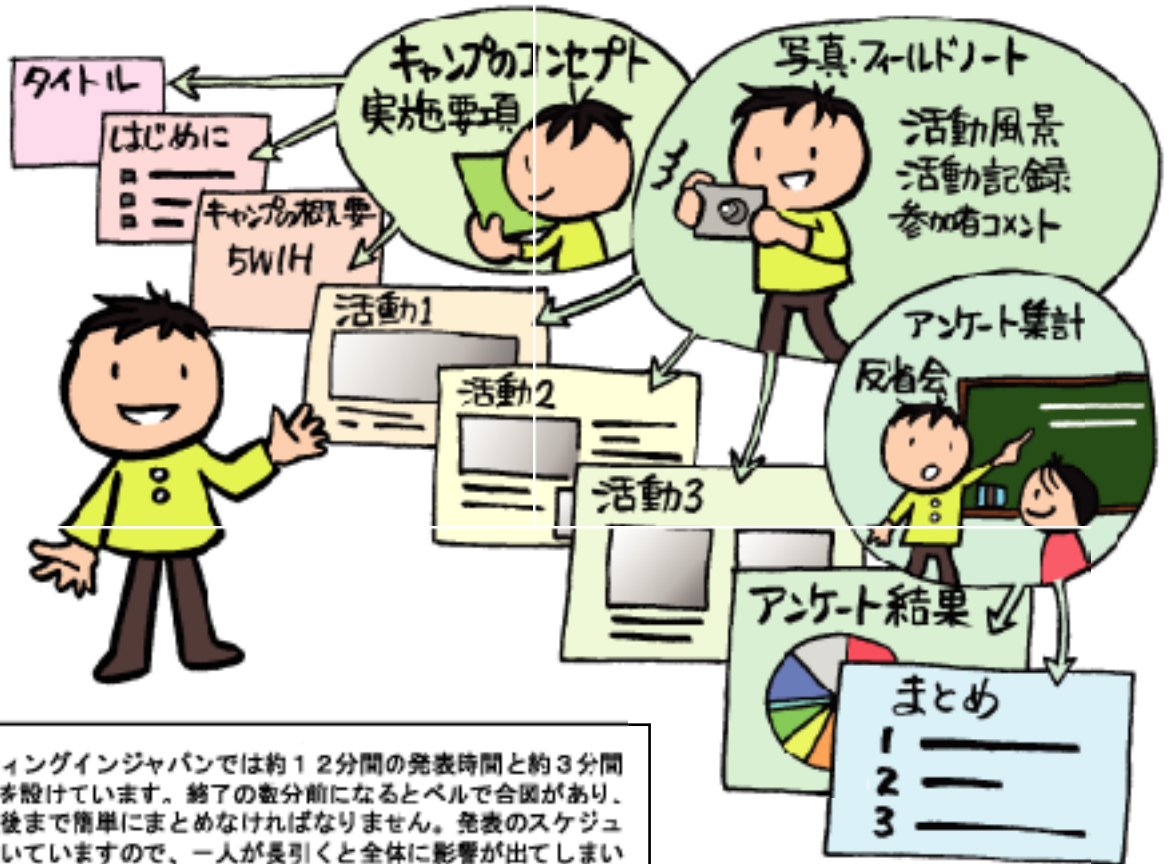
ポスター発表って何？

実践報告の発表の仕方として、たくさんの参加者の前で、決められた時間（キャンプ会議では約12分間）発表する「口頭発表」と、一定の時間（キャンプ会議では約1時間程度）報告内容を掲示し、聴衆に個別に説明する「ポスター発表」という方法があります。口頭発表と違ってポスター発表には次の様な特徴があります。みなさんの実践を報告するのにどちらがよいか判断し、ポスター発表にも積極的にチャレンジしてみましょう。

- 🍎 興味をもってくれた特定の人と長い時間とことん話し合い、情報交換することができる。
- 🍎 グラフにできない細かい数字や長い文章を報告するときに、ゆっくり見てもらうことができる。
- 🍎 発表をたくさんの人に伝えられなかったり、あまり人に来てもらえないときがある。
- 🍎 人目を引くポスターを作るためにカラープリンター等の印刷機器が必要となる。

◇発表スライドづくりに挑戦

スライドは、写真で活動の様子を紹介したり、グラフでアンケート結果を示したりすることができ、聞く人の理解を助けます。スライドを作ることは発表に必ずしも必要条件ではありませんし、同じ内容を資料として配る方法もありますが、話の流れにそって情報を小出しにできることや、参加者が発表者に注目しやすくなるために、積極的に準備しましょう。

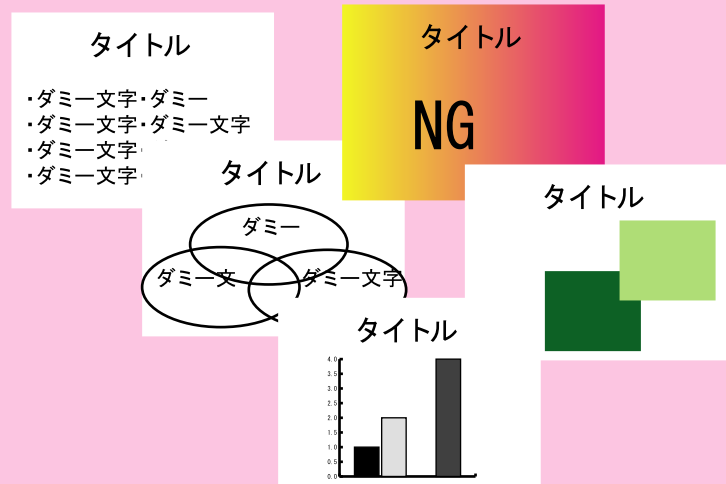


キャンプミーティングインジャパンでは約12分間の発表時間と約3分間の質疑応答の時間を設けています。終了の数分前になるとベルで合図があり、残りの時間で、最後まで簡単にまとめなければなりません。発表のスケジュールは分刻みで動いていますので、一人が長引くと全体に影響が出てしまいます。そのため、ベルがなっても話し続けるのはあまり適切な発表態度ではないでしょう。

わかりやすいスライドの作り方

せっかく、スライドを準備しても、わかりづらい内容だったら、聞く人の理解を妨げることになってしまいます。現在はパソコンソフトの進歩、向上により、スライド作りがとても簡単になりました。以下の点に注意し、わかりやすいスライドを作りましょう。

- ・起承転結をわかりやすく
- ・スライドごとにタイトルを
- ・文字は最低18ポイント以上
- ・長い文章は箇条書きに
- ・長い文章は概念図（モデル）でも表現
- ・表はできる限りグラフ（図）に
- ・色を使い過ぎるとかえって見づらい
- ・1つのスライドで1分間を目安に
- ・写真は複数をもとめて1つのスライドに
- ・こりすぎない



◇実践報告論文の書き方

現場で集めた「素材」、「抄録」のテキストデータ、「スライド」に活用した図やそのもとになった集計データ表、プログラムの開発段階やアンケートを引用した文献情報等を整理して、論文に組み立てなおしましょう。構成は原則的には抄録と変わりませんが、それぞれの章の中身をより詳しく、説得力をもった内容に修正します。それぞれの章で注意することは次の通りです。

1. はじめに（緒言）

企画段階で相談したキャンプのねらい、背景、特徴を説明し、論文のオリジナリティ（独自性）や必要性を主張します。政策報告書、過去の研究論文、書籍等を引用すると説得力が増します。

2. 実践概要（方法）

企画書で整理した日時、場所、参加者、指導者等の最終的な情報を正確に記載します。キャンプのプログラムなどはスライドで作った表を用いることもできます。アンケートをとった場合は、その内容ややり方もここで説明します。

3. キャンプの実際（結果）

実際のキャンプの様子を写真等を有効に活用し説明します。ただし、多すぎる写真は、文字のスペースを減らし、詳細な説明が不足する原因となります。参加者のアンケートの集計結果を用いて、表を作成し具体的な数値を公表しましょう。スペースがあればグラフを挿入すると結果の理解を助けます。写真同様、量に注意。

4. 結果の解釈（考察）

結果を解釈するとき、プログラム開発で参考にした書籍、実践報告や、アンケートを引用した研究論文の結果と比較することにより、客観性を高めることができます。

5. まとめ（結論・今後の課題）

キャンプの成果、反省点、今後の課題を述べます。この段階で新たな論点や情報を出すと、読者が混乱しますので、必要以上に長くする必要はありません。これまでの情報をまとめて短く繰り返すことで、読者は筆者の主張のポイントを理解できます。

6. 引用文献

本文中に引用した文献の情報を記載します。書き方は、『キャンプ研究』巻末資料『キャンプ研究』投稿のてびきを参照してください。



わかりやすい文章を書くために

すべての論文は、「情報として価値がある」、「事実をきちんと報告している」、「必要事項を過不足なく書いている」、「誰でも同じように理解できるように書いている」、「事実を客観的に解釈できている」といった条件を満たさなければなりません。この段階で「ギブアップ」と思ってしまう人もいるかもしれません。ところが、これら全ては実践者としてキャンプを行う上で必要なことなのです。あなたのキャンプの特徴は何ですか？事実を参加者にきちんと伝えていきますか？もう一度同じようなキャンプをできますか？保護者はあなたの思いを受け取ってくれていますか？キャンプの成果を客観的に評価できていますか？おそらく、これらができていなければ、キャンプは続いて行かないと思います。つまり、キャンプを続けている人は、すでに論文を書く能力を備えており、論文を書くことであなたの実践力をより高めることができるのです。



わかりやすい論文の書き方

イケてる実践報告、研究資料を書こう

1) 新たな情報が示されているか

(メッセージは何か)

キャンプに関連する新たな取り組みや情報を示し、執筆者の主張したい内容をわかりやすく述べてください。この論文を通して、読者に何を一番伝えたいのか（伝えたいものは複数でもかまいませんが）、明確に示してください。

2) 適切な見出しがあるか (起承転結)

例えば、論文全体を、1. はじめに（資料の意義、実践の動機など）、2. 方法（資料の収集方法、調査の手続き、実践内容など）、3. 結果（得られた資料、調査の結果、参加者の感想など）、4. まとめ（考察、結論、キャンプへの新たな示唆など）のように章立てしてください。また、必要に応じ、各章は一定のまとまりのある内容で節立て・項立てしてください。各章・節・項の題目は、上記の例にこだわらず、その内容にふさわしい見出しを付けてください。

3) わかりやすく簡潔な表現か

(読みやすさ)

読者に読みやすい文章を書くために以下の点に注意してください。

- ・一文が長すぎないこと。
- ・文章が明瞭で一義的であること。
- ・できる限りはっきりと言い切ること（「と思われる」、「であろう」等多用しない）。
- ・文章に一定のまとまりのある内容のパラグラフがあること。

4) 客観的な事実に基づいているか

(説得力)

執筆者の考えや意見を主張することは大切ですが、あまりにも主観的な内容に偏ったり、客観的な事実に裏付けされていない意見だと、読者の共感を得られません。また、実際に起こった具体的な出来事や、参加者から得られた感想のような客観的な事実と、執筆者の個人的な意見を混同しても、読者にとってわかりづらい文章になってしまいます。

- ・一人称を乱用しないこと。
- ・過大な修飾をしないこと。
- ・根拠に基づかない表現をしないこと。
- ・意見と事実を明確に区別すること。

5) 個人名の記載に配慮すること

(対象者の保護)

キャンプの報告や研究方法は、できる限り具体的に詳しく記載しなければなりません。参加者名、関係者名、被験者名を記載することにより、個人が社会的なデメリットを被ったり、不快感を感じるような記載の仕方は、絶対に避けなければなりません。そのため、論文で個人名をあげることはほとんどなく、個人を特定できるような団体名や組織名の記載に関しても十分な配慮を必要とします。事例研究などで、個人的データを提示する必要がある場合は、アルファベットなどの記号で対象者名を代用します。

論文作成に役立つ書籍

①レポートの組み立て方

木下是雄著 発行：筑摩書房 ¥819 (税込) ISBN : 9784480081216

②自己表現力の教室～大学で教える「話し方」「書き方」

荒木晶子・向後千春・筒井洋一著 発行：情報センター出版局 ¥1,365 (税込) ISBN : 9784795831327

③知へのステップ 大学生からのスタディ・スキルズ (改訂版)

学習技術研究会編著 発行：くろしお出版 ¥1,890 (税込) ISBN : 9784874242472

④体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方 ～資料作りから発表まで

国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科編 発行：アイオーエム ¥1,575 (税込) ISBN : 9784900442291

⑤自然体験活動の報告書・レポート・論文のまとめ方 学校教育の実践報告から大学生の卒業論文まで

日本野外教育研究会編 発行：杏林書院 ¥2,310 (税込) ISBN : 9784764415461

どの本も大学生がレポートや論文作成を学習するためのテキストです。こうした書籍が実はたくさん出版されています。つまり、受験勉強を乗り越え読み書きがしっかりとできる大学生でも、レポートや論文を書くためには、ある程度のルールのようなものを一度勉強しないと難しいということなのです。ですから、こうした本を一冊は読んでみることをおすすめします。

①は、文章自体の構成の仕方を分かりやすく説明している点が参考になります。文庫本サイズの小さな本なので、通勤通学の際に読むのにもおすすめです。

②は、話し方について扱っています。報告というと書くことが中心になりますが、プレゼンテーションの部分も大切にしたいものです。

①②が活字の部分が多い読み物としての書籍とすれば、③④は、図や表、解説などを含んでおり、大学でテキストとして使われている書籍です。どちらも資料収集からレポート・論文の作成、プレゼンテーションまでひと通りの手順が示されています。

⑤は、詳細な説明も多く少々難しい内容かもしれませんが、自然体験活動をテーマにした本なので、キャンプに関係した報告や論文が例としてたくさん使われていて参考になると思います。

インターネットで 検索できる お役立ち情報

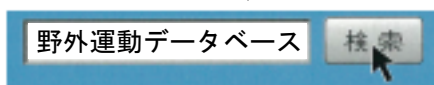
野外運動データベース (R. O. P Resources in Outdoor Pursuits)

野外運動データベース (R. O. P) は、日本野外教育学会が管理する、キャンプ、スキー、登山、水辺運動及び野外での集団宿泊学習等の野外運動に関連する国内の研究論文を収録するデータベースです。このデータベースには、学位論文（博士・修士論文）、学術論文（各大学紀要、体育学研究、レクリエーション研究等）、各種学会発表論文を対象としておよそ6200件が収録されています。

【利用方法】

<http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/jsss-cgi-bin/rop.index>

もしくは



でトップページを開きます。

「検索ページ」に「キーワード」を入力し、「検索実行」ボタンを押すと、「検索結果」が表示されます。



<R. O. Pのトップページ>

論文以外の情報サイト

① 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 「青少年教育情報ポータル」

<http://www.niye.go.jp/kyoiku/index.html>

青少年教育に関する情報の総合窓口です。青少年及び青少年教育関係者の方々に役立つ情報やデータベースを提供しています。

② 政府統計の総合窓口「日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト」

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>

従来、各府省等ごとのホームページに掲載されていた各種統計関係情報をこのサイトからワンストップで閲覧できます。各府省等が登録した統計データ、公表予定、新着情報、調査票項目情報などの各種統計情報を掲載しています。

③ なるほどデータ for きっず「おやくだちデータ倉庫」

<http://www.stat.go.jp/kids/datastore/index.htm>

統計データを年少の頃から身近なものとして利用し、理解してもらうことが統計の普及、啓発を図る上で重要との認識で公開しています。グラフの下にあるボタンをクリックするだけで、画面に表示されているグラフ及び表（グラフの作図原表）、掲載原データ（出典元の統計データ）をPCにダウンロードすることができます。

キャンプのあしあと～実践報告のてびき～

2008年3月31日

編集 社団法人日本キャンプ協会 調査研究委員会

平野吉直 大石示朗 井上忠夫 岡村泰斗

甲斐知彦 小泉紀雄 坂本昭裕 多田 聡

月橋春美 吉田太郎 戸室勇児

イラスト 前澤桂子

発行者 酒井哲雄

発行所 社団法人日本キャンプ協会

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター内

tel. 03-3469-0217 fax. 03-3469-0504

Email: ncaj@camping.or.jp <http://www.camping.or.jp>

印刷 (有) サンエイプレス



Copyright (社)日本キャンプ協会 無断転載を禁ず